

# -特定非営利活動法人 ひらかた環境ネットワーク会議

## 令和4年度 通常総会議事録

1. 日 時：令和4年6月4(土) 10時30分～12時5分
2. 会 場：サプリ村野南館 2階 環境保全研修室
3. 正会員数：85名
4. 正会員出席者数： 63 名  
(本人出席 18名、委任状出席 20名、議決権行使書出席 25名)

### 5. 議題

- 第1号議案 役員選任に関する件
- 第2号議案 2021年度事業報告書案承認の件
- 第3号議案 2021年度活動計算書案承認の件
- 第4号議案 2022年度事業計画書案承認の件
- 第5号議案 2022年度活動予算書案承認の件

### 6. 議事経過及び結果

- (1) 事務局が本日の通常総会は定足数を満たして有効に成立している旨を述べて、開会を宣言した。
- (2) 司会の末岡氏が議長に伊丹氏を推薦し、満場一致をもって選任された。
- (3) 議長が、議事録作成人に事務局、議事録署名人に阪口重樹氏および廣田武司氏を指名した。
- (4) 議長が、緊急を要する議案がないかを諮ったところ、丸井理事から次の議案を緊急議案として上程したいとの申し出があり、丸井理事が説明し、議長が全員に諮ったところ全員異議無く緊急議案の上程を可決した。

#### <緊急議案>

議案書 22 ページ 2022年度事業計画書(案)2 環境講座開催事業に「(3) くらわんか塾開講事業」を加えることを上程する。内容は、従来のくらわんか塾と異なり、広く市民に対して環境についての学びの場を提供する。年2回開催予定

- (5) 第1号議案「役員選任に関する件」

理事会は上記議案を上程した。議案について丸井事務局長から説明があった後、議長が質問や意見を伺い、下のような意見がでた。その後、議長が全員に諮ったところ、全員異議無く原案どおり承認可決した。

<質問・意見>

廣田：退任された理事についての説明いただきたい。

伊丹理事はご自身の都合により退任される。また、ひらかた市民活動支援センターの渡辺理事は団体意思として当法人の理事を退任される。関西電力送配電株式会社の石本理事、枚方市環境部長の川南理事、枚方青年会議所の小林理事は、いずれも団体内部の異動による退任（交代）である。

末岡：環境部長の兼瀬さん欠席の件をご説明いただきたい。

丸井：欠席ということについては担当職員から事前に説明されていた。

柳谷：4月以降の日程調整となり、先に予定があったためやむを得ず欠席となった。

(5)第2号議案「2021年度事業報告書案承認の件」及び第3号議案「2021年度活動決算書案承認の件」

理事会は上記議案を上程した。各議案について丸井事務局長が内容についての説明に加え下記の通り一部誤記があったため修正を伝えた。その後、柳谷監事より監査報告が行われた。次に議長が質問や意見を伺い、下のような意見がでた。その後、議長が第4号議案、第5号議案についてそれぞれ承認をうかがったところ全員異議なく、原案どおり承認可決した。

(誤記修正箇所)

6 ページ 環境基礎講座開催日時 10月5日⇒10月23日に修正

<質問・意見>

藤原：一つ提案として、活動の報告と決算報告を分けて報告いただいた方がわかりやすい。

また、単年度収支予算が赤字になっている点について、活動が活発になるほど費用もかかるので、活動を精査していくことも必要ではないか。

丸井：ひとりでも多くの方に環境についての啓発を行いたい。そのために活動をしているので事業を絞り込むことは考えていない。また、事業の多くがボランティアに支えられて進められているという事も認識している。

しかし、一方ではそのことに甘えてはいけなないとも思っている。収入に繋がる収益事業を見つけ、ボランティアに還元していけるよう努力はしているが、なかなか「収益事業」はないのが現状である。引き続き収入増に繋がる取り組みを模索していきたい。

藤原：活動の効率を考え、多くのボランティアが参加しやすいように考えていくことも必要だと思う。

末岡：NPO 法人の活動の中で、効率や絞り込みという考えをもったことがなかった。  
環境ネットワーク会議は「やりたい活動をやっていく」「やりたいという意味  
を持っている方の集まりの団体」であると思っている。

(6) 第 4 号議案「2022 年度活動計画書案承認の件」及び第 5 号議案「2022 年度活動予算  
書案承認の件」

理事会は上記議案を上程した。また、冒頭で採択された緊急動議の件を加えて、  
各議案について丸井事務局長が説明をした。次に議長が質問や意見を伺い、下のよ  
うな意見がでた。その後、議長が第 4 号議案、第 5 議案についてそれぞれ承認をう  
かがったところ全員異議なく、修正案どおり承認可決した。

22 ページ 環境スターター講座開催事業 補助金⇒受託費に修正

(質問・意見)

谷本：事業計画の受託費というのは予算書の中ではどれにあたるか。

丸井：予算書の事業収入のうち、環境情報コーナー管理運営収入およびモビリティマ  
ネジメント事業収入がそれにあたる。枚方市から環境情報コーナーの管理・運  
營業務を委託されており、環境講座や緑のカーテンの取り組みなどを行っている。

谷本：枚方市からは補助金と合わせて 260 万ほどの収入がはいっているということに  
なる。

森：会員数を教えてほしい。部会以外にだれがいらっしゃるのかわからない。

丸井：会員数については議案書 14 ページに記しているとおりである。会員間の交流を  
図るため、各種交流会を企画していたが、その直後にコロナが始まり、実施で  
きなくなってしまった。また以前は総会の後に交流会を開催していた。そろそ  
ろ何かの形で始めたい

市山：NPO 法人で寄付金収入がゼロというのはさびしい。

丸井：寄付金ではなく、協賛金という形で企業からいただいている。

阪口：出前授業の謝礼は寄付金として法人にいれているが寄付金収入にはならない  
のか。2019 年度までの議案書では、寄付金収入として記されている。

丸井：事業収入の環境教育支援事業の収入となっている。環境出前授業事業という事  
業による収入なので費目として、事業収入とするのがふさわしいと考え費目を更  
変した。。

松田：自然エネルギー学校が 2 か所にかかっているのはなぜか。

丸井：23 ページについてはタイトルを自然エネルギー普及啓発事業に修正してほしい。

環境ネットの環境講座は3つあり、その1つが自然エネルギー学校である。そしてそれを担っているのが自然エネルギー部会である。そのため、二カ所に記載するということになってしまっている。自然エネルギー学校の欄に記載している内容は講座の内容と、その他の活動が混在している。混乱させて申し訳ない。

修正版をHPにアップする。

末岡：この団体の活動にもひらかたポイントが導入できないのか。

柳谷：ひらかたポイントは福祉に限定されている。

末岡：バスのってスタンプラリーは、参加するとポイントがつく。環境部からも働きかけしてほしい。

柳谷：引き続き働きかける。

阪口：エコフォーラムに教育委員会の共催がなくなったのはなぜか。

柳谷：学校園の環境表彰で取り組み発表を行っていたが、指導や休日出勤など先生の負担が大きく、取り組み発表ができなくなったためである。

阪口：教育部会としては非常にいいPRの機会となっていたので、続けていただけるよう検討いただきたい。

藤原：会員を増やすことも一つの啓発となる。NPO フェスタなど、他のイベントへも積極的に参加していった方がいいと思う。それは議案書のどこに反映されているか。

丸井：NPO フェスタにも毎年参加しているが、そこで入ってくださる方は皆無と言ってもいい。現状はマイゴーヤやミニ講座への参加者に働きかけ、会員になってもらうというケースが多い。人のつながりから入ってくださる方が一番多いので、会員さん一人一人が周りの方に声をかけていただくということを意識していただきたい。

松田：環境講座開講にくらわんか塾を開催するという話があったが、くらわんか塾に予算はつかないのか。

丸井：環境講座費用に含まれる

松田：環境講座費用の割り直しが必要である。

丸井：割り直しをし、修正したものをHPにアップする。

藤尾：東部の生産緑地がなくなっていくという緊急の状況がある。農地は一度なくなってしまうと終わりである。そこで、新しい事業として、多様な生物の生息地を残すためにも、農地やため池を残す事業に取り組んではどうか。

川のワンドの保存活動は行われているが、農地やため池の保存活動はあまり見られない。メダカやドジョウなどいろいろな生き物がいる農地やため池をなんとか残せないか。

伊丹：かなり大きな事業となるので、当団体では抱えるのが難しいような気がする。

藤尾：里山にはイノシシがいる。イノシシを殺すのではなく、里においてこない方法

を考えられないか。時代が変わっていることも意識して欲しい。

末岡：ひらかた環境ネットワーク会議では、3人の方を集めて理事会の承認を得れば部会が開けて活動ができる。もう一つプロジェクトチームという方法もある。どちらにしても中心となって動かれる方と一緒に活動する仲間が必要である。

大切なテーマは年々でてくる。ぜひとも仲間を集めて、部会を立ち上げて活動していただきたい。正会員には活動を立ち上げる権利があるのだから、ぜひ会員さんの中で仲間を集めてやってほしい。

阪口：S-EMSが終了し、学校では、ゴーヤと緑のじゅうたんについては公務員が担っており、負担となっている。これに予算をつけれないか。

柳谷：S-EMSは学校の中で継続はしている。全学校に予算をつけるのは難しいが、苗の配布などで援助している。

阪口：緑のじゅうたんの方に手間がかかる。

末岡：学校によって差が大きい。コミュニティが関わって管理しているところもあり放置していることもある。学校文化である。ある程度仕方がないのではないか。

議長は、他緊急を要する議案がない事を確認し、以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した（午前12時5分）。

上記の議事の要領および結果を明確にするために、議長ならびに議事録署名人2名が次に記名押印する。

令和4年6月4日

議長 伊丹 均 ⑩

議事録署名人 廣田 武司 ⑩

議事録署名人 阪口 重樹 ⑩